HANDS

Kokura Memorial Hospital

95
2024

いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555　北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号　TEL.093-511-2000（代表）　小倉記念病院　検索

TEL.093-511-2062（医療連携課）FAX.0120-020-027（医療連携課）FAX.093-511-2032（救急室）夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

健康で歩けるということは実はとても幸せなことです。足の症状で悩んでいる人は多くいます。下肢閉塞性動脈硬化症が進行すると足の潰瘍や壊疽といった症状に進むことがあります。循環器内科のEVTチームは“歩く”という当たり前の日常を決して諦めません。

足の治療を諦めない。

足の潰瘍、壊疽の治療における新たなオプション吸着型血液浄化器による

血液浄化療法

1年の創傷治癒率 60.9%

※多施設共同研究TURNIPでの吸着型血液浄化器治療後1年後

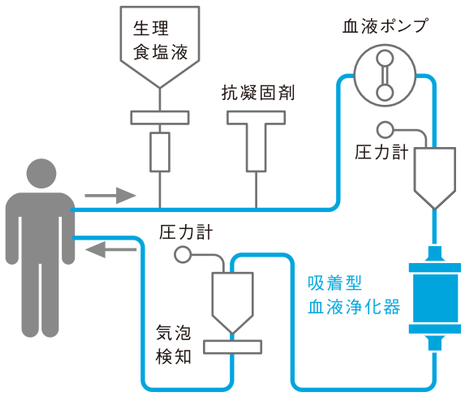
血液浄化療法を管理
透析のプロフェッショナル

血液浄化療法は透析室で行われます。
腎臓内科医師、看護師、臨床工学技士など多職種が連携し、治療を行っています。

血液浄化療法とは、体内循環によって血中から病気の因子を除去し、病態の改善を図る治療法です。

CLTIは下肢虚血、組織欠損、神経障害、感染などの肢切断リスクを持ち、治療介入が必要な下肢の総称です。全国で間欠的跛行や安静時疼痛などの症状がある患者は推計100万人いると言われています。特に透析患者はLEAD（下肢閉塞性動脈疾患）の合併率が高く、日本透析医学会の統計では、慢性透析患者の約4%が四肢切断を受けているといいます。またそのほとんどがCLTIに伴う下肢切断と見られています。CLTI治療の血液浄化療法は、体外循環によって血液中のLDL、フィブリノーゲンを選択的に吸着除去することにより血流改善し、病態の改善を図る治療法です。吸着型血液浄化器による血液浄化療法は2021年4月より保険診療が開始されました。

■ 吸着型血液浄化器による血液浄化療法



【治療時間】約2時間 通常は週2回、合計24回を目安に3ヶ月間潰瘍の状態を見ながら治療します。

対象患者

血行再建術不適応な潰瘍を有するASO（Fontaine IV）患者。
※以下の患者には適用しないこと。

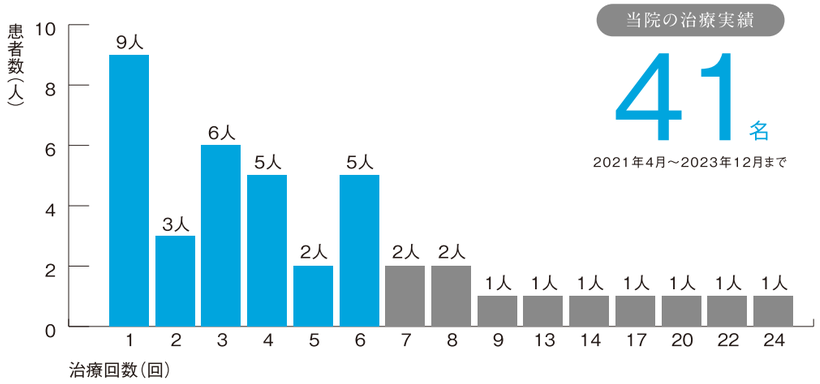
・アンジオテンシン変換酵素阻害薬（ACE 阻害薬）服用中の患者。
（吸着型血液浄化器を使用中にショックを起こすことがある。）
・抗凝固剤使用が禁忌である患者。

血行再建術不適応の判断基準

①血液再建術が実施できない（不適応）患者、もしくは、
②実施しても術が不成功や再搾取などで潰瘍が改善しない（不適応）患者であり、その基準は以下のとおり。

（1）解剖学的困難（不適応）
（2）血行再建術が手技的に不成功（不応答）
（3）血行再建術が臨床的に不成功（不応答）
（4）その他の理由（不適応）

■ 治療回数と患者数



当院の治療実績
41名
2021年4月～2023年12月まで

透析患者はシャント、非透析患者はカテーテルを使用して治療を行います。当院ではEVT（末梢血管疾患を主とする手足の血管が細くなり詰まった箇所にバルーン（風船）やステント（金網の筒）を用いて広げる治療法）後1～6回で治療を行って退院します。退院後は外来通院での治療は行っておらず、透析クリニックなど紹介施設で一連の継続治療をお願いしています。

患者インタビュー

諦めるな

寡黙で温和な雰囲気の奥田さんは岩国市在住で、当院と約2年の付き合いになる。初めは２０２１年12月、すでに何度か山口県内の病院でカテーテル治療を行ったが、冷感と痛みが強く藁にも縋る思いで小倉の地を踏んだのが始まりだ。

普段は近隣の病院で透析を週3回行いながら毎日自営業の仕事も精力的に行うという忙しい毎日。自宅ではお気に入りのソファで寛ぐのが日常の風景になっている。昔は野球をしていて、観るより自分がプレイする方が好きという根っからの野球人。子どもの野球の練習にも熱心に付き合った。「昔は長嶋茂雄がいる巨人が好きだったな。巨人〝が〟好きってわけじゃなくて、長嶋〝が〟好きなの。今はもっぱら大谷くんだね（笑）。いつも試合を楽しみに観ているよ。実は娘も野球で就職したんだよ。」

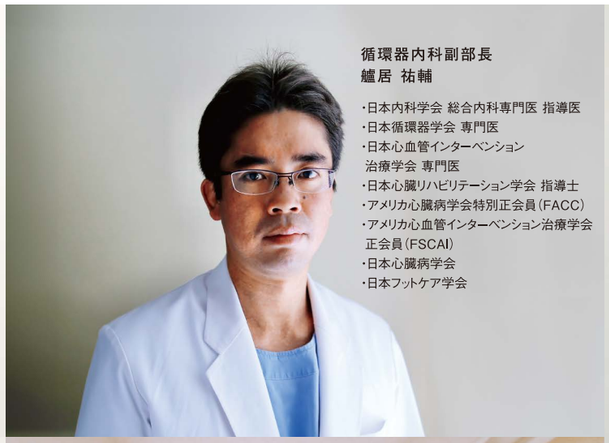
足の不調が始まったのは10年以上前から。カテーテル治療を何度か行ったがなかなか快方に向かわず、その時の主治医がセカンドオピニオンを勧めてくれた経緯もあり、小倉記念病院に受診することになった。「たまたま透析中に看護師さんが、『足で小倉記念病院を受診した患者さんがいましたよ』って言っていたのを思い出して、すぐにお手紙を書いてもらいました。患者が多いから、すぐの治療は難しいかもと思って受診したけど、曽我先生は『すぐ入院の準備をして2日後来てください』と言ってくれて。両足別々にカテーテル治療を受け、透析と同時に血液浄化療法を受けました。残念ながら右足の指は切断することになってしまったけど、記念病院に辿り着いて良かったと思っているよ。ただ、切断後の入院中は動けなくて本当に大変だったな。ちょうどコロナの時期であの頃は家族の面会はほとんど出来なかったしね。」奥田さんに、同じような症状をお持ちの方にメッセージはありますか?と聞くと、少し時間をおいてはっきりとこう言った。「諦めるな、と言いたい。私は透析をしているが、糖尿病も持っていないし足が石灰化しやすいなんて知らなかった。足の潰瘍が悪くなるのはとてもスピードが速いので、諦めず希望を持って早め早めの行動を取ってほしいと思います。」

奥田さんは現在経過もよく、転倒に気をつけながらも家族との日常を楽しんでいる。「曽我先生に言っておいて。先生にこの間運動してくださいって注意されたから近所の散歩とスクワットしているよって。」もうじき桜が咲く季節。近くにある錦帯橋はこの季節観光客でとても賑わいを見せるのだそうだ。奥田さんは痛みを感じることなく、桜満開の錦帯橋を思う存分散策することだろう。

山口県岩国市在住 奥田憲三さん

循環器内科
平野　太一

・日本内科学会
・日本循環器学会
・日本心血管
インターベンション治療学会

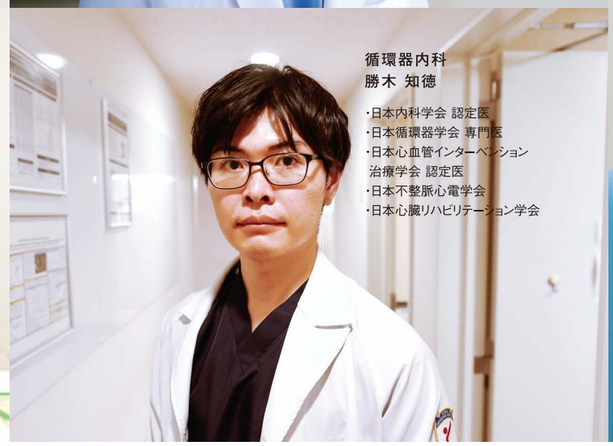


循環器内科副部長
艫居 祐輔

・日本内科学会 総合内科専門医 指導医
・日本循環器学会 専門医
・日本心血管インターベンション
治療学会 専門医
・日本心臓リハビリテーション学会 指導士
・アメリカ心臓病学会特別正会員（FACC）
・アメリカ心血管インターベンション治療学会
正会員（FSCAI）
・日本心臓病学会
・日本フットケア学会

循環器内科
角田 一生

・日本内科学会



循環器内科
勝木 知徳

・日本内科学会 認定医
・日本循環器学会 専門医
・日本心血管インターベンション
治療学会 認定医
・日本不整脈心電学会
・日本心臓リハビリテーション学会

循環器内科部長
曽我 芳光

・日本内科学会 総合内科専門医 指導医
・日本循環器学会 専門医
・日本心血管インターベンション治療学会 専門医
・日本心臓リハビリテーション学会 指導士
・アメリカ心臓病学会特別正会員（FACC）
・日本不整脈心電学会

増加する下肢閉塞 性動脈疾患（LEAD）

―曽我先生が診る下肢閉塞性動脈疾患、いわゆるＬＥＡＤ（リード）の患者は増加している印象ですか？

曽我　そうですね、増えていると思います。増加している要因としては、昔は足に潰瘍が出来たからといって循環器内科受診する人はいなかった。でも今は循環器内科受診する人が増えているという影響もあるでしょうね。また糖尿病患者だけではなく透析患者、タバコや加齢も増加している要因となっていますね。

―血液浄化療法は従来の補助療法と比較して有効性は高いのでしょうか？

曽我　僕が行っている他施設共同研究ＴＵＲＮＩＰでは、血液浄化療法を10人施行して1年後生存していた7人中6人の創傷が治癒したという結果になっています。他の補助療法、高気圧酸素療法や脊髄刺激療法と単純に比較するのは難しいのですが、この研究の母集団の8割くらいが透析ということを考えたら比較的良い結果と言えると思います。この治療を行う特に糖尿病の患者は感覚が鈍くなっていることも多いのですが、この治療をすると暖かく感じるとか、ジンジンするとか今まで感じなかったものが感じるようになったっていうのはよく聞きます。感覚が戻ってくるのでしょうね。

―血液浄化療法自体は九州でも約２２０施設（２０２４年1月現在）と多くの施設が行っている印象ですが、治療はどういう流れで行われるのですか？

曽我　そもそも傷がない人は血液浄化療法の対象ではありません。治らない潰瘍があって、血行再建術が不適応または実施しても潰瘍が改善しない不応答患者が対象なので。ただ血液浄化療法自体は主に透析が出来るクリニックではたくさんやっていると思います。当院でのおおまかな流れは、まずうちに入院してもらって血行再建してから血液浄化療法を導入して、病診連携でクリニックに引き続き治療をお願いするという流れですね。補助療法なので、この治療で必ず治癒すると言えるわけではないのですが、補助療法の中でも期待出来る治療と言えると思います。保険適用は連続で最長3ヶ月、24回までに限られますが、血行再建が可能なら行った上で、初期治療で十分感染管理や処置を行って創傷が安定した段階で導入を判断する方がいいですね。その際は循環器内科を始め外科や形成外科、血液浄化療法を行う腎臓内科など治療に携わる診療科がチームになって判断しています。

―足が壊疽してしまい切断する方も多くいらっしゃるのですね。

曽我　そうですね。特にＣＬＴＩは透析患者が多くいます。切断をする際に医師は完治を目指すために大きな範囲での切断を提案することが多いのですが、患者さんはなるべくなら切りたくない。心情としてはそうですよね。だから小さい範囲で切断する場合は、これで治らなかったらもう少し広い範囲での切断になりますよって説明します。ただそんな中でも血液浄化療法は切断部分の治癒を早める効果も大いにあると思います。残念ながら2度、3度と切断を余儀なくされる方も中にはいますが、1回の切断で綺麗に完治する方もいますからね。

―先生が市民公開講座や出張講座でお話される「あしの血管のお話」はいつも大変人気ですよね。それだけ足で困っている方はとても多いという印象です。

曽我　足に不調を抱えている人はたくさんいますね。そんな方は足を診ることができる循環器内科を受診してもらって大丈夫です。当院には僕を始め〝足チーム〟5名の医師が足の治療に携わっていますのでいつでもご相談ください。講演はそろそろ勝木先生にバトンタッチしようかなと思っていますが…実は僕が一番時間あるんだよね（笑）

―出張でスペインから戻ってきたばかりでしたよね？今後も曽我先生にはまだまだ講演のご依頼させていただきます（笑）